

1 プロジェクト内容

(1) プロジェクト名	リノベーションまちづくりの推進とまちづくり拠点の設置
-------------	----------------------------

(2) プロジェクトの成果 (※そのような成果が得られたかについて具体的に記載)
--

本プロジェクトでは以下の4つの成果が得られた。

【01：5棟の遊休不動産化した建物のリノベーション支援と事業化の実現】

2021年度、2022年度のコンソーシアム瀬戸の取り組みにより、尾張瀬戸エリアを対象に、4物件のリノベーション事業を支援した。その結果、歴史的建造物の旅館「松千代館」のまちづくり拠点としての再生、歴史的建造物の長屋を活用した本屋「ひとしづく」の実現、シェアをテーマとして新たなまちづくりの担い手を生み出す「瀬戸くらし研究所」の実現、について事業化が成立した。



本屋「ひとしづく」(リノベ・事業化支援 2021)



瀬戸くらし研究所(リノベ・事業化支援 2022)



梅村商店(リノベ支援 2021)



松千代館(リノベ・事業化支援 2021)

2023年度のコンソーシアム瀬戸の取り組みにより、尾張瀬戸エリアを対象に、歴史的建造物である瀬戸物問屋「梅村商店」の建物のリノベーション活動支援を継続支援し、瀬戸物問屋を活用したレセプション空間、シェア空間の実現、について事業化が成立した。

また、新たに瀬戸市菱野団地において「松千代館」の取り組みを継承展開し、学生シェアハウス「トモクル01」の事業化を実現した。



梅村商店(リノベ・事業化支援 2023)



トモクル01(リノベ・事業化支援 2023)

【02：リノベーション支援を通じた社会貢献教育の実現】

社会貢献教育の場として、様々なリノベーションプロジェクトへの学生参画の場を創出した。

2023年度は、梅村商店のDIY支援、菱野団地学生シェアハウス「トモクル01」の設計WS、DIY支援、事業化支援などの場が実現した。



梅村商店 (リノベ・事業化支援 2023)



トモクル01 (設計検討WS 2023)



トモクル01 (リノベWS 2023)



トモクル01 (リノベWS 2023)

愛知工業大学4年生、東京都立大学3年生の学生を対象に授業の一環として、瀬戸合宿を開催し、尾張瀬戸における空き家を対象に、リノベーション物件の事業化検討を行い、空き家所有者への提案を行った。また、イタリアからの視察団への対応を実施した。



合同合宿の様子 (2023年8月)



合同合宿の様子 (2023年8月)



合同合宿の様子 (2023年8月)



イタリア視察団の案内 (2023年8月)

【03-1：まちづくり拠点「松千代館」の開設と運営の充実】

長く空き旅館となってきた、末広商店街の発祥と言われている歴史的建造物の旅館「松千代館」をまちづくり拠点として整備を推進した。1階を貸し会議室やギャラリー利用、2階を学生シェアハウスとして整備した。整備資金を確保するため、クラウドファンディングを実施した。2021年10月から学生シェアハウス及びまちづくり拠点を開設し、段階的に居場所環境の充実や運営の充実を図っている。また、商店街活動に学生が多く参加する様になってきている。

2023年度は、商店街の方々と交流しながら、お祭りの際にスタッフとして参加したり、商店街振興会の理事会に学生が参画したり、商店街のイベントと合わせて学生主体のカフェを運営したりと商店街の一員としてまちを盛り上げる活動を数多く実施した。また、大学コンソーシアムせとの取り組みとして実施された「大学コンソーシアムせとプレゼンツ動画コンテスト 2023」に「せとまちライフ 住・遊・働・学」の動画を作成応募し、最優秀賞と友好姉妹都市特別賞を受賞した。



「大学コンソーシアムせとプレゼンツ動画コンテスト 2023」で最優秀賞・友好姉妹都市特別賞を受賞



学生による視察対応の様子



商店街イベントと合わせたカフェ運営の様子

【03-2：岩屋堂公園における空き店舗を活用した学生チャレンジカフェの実現】

2022年度のコンソーシアム瀬戸の取り組みに引き続き、瀬戸市の岩屋堂公園にて、空き店舗を活用した学生チャレンジカフェを年間通じて運営した。長期運営として、春の社会実験、夏の運営、秋の運営を実施した。2023年度、本取り組みは、ケーブルテレビからの取材も受けた。



岩屋堂公園を活用した学生チャレンジカフェの取材の様子



TVスタジオにもゲストとして参加

【04：大規模歴史的建造物「旧山繁商店」の活用検討】

尾張瀬戸エリアの中でも課題となっている、大規模歴史的建造物である国登録有形文化財「旧山繁商店」の活用検討を推進した。旧山繁商店は、瀬戸物の問屋であり、やきものの産地としての文化を継承する貴重な歴史的建造物である。瀬戸市文化課との協議を行い、2023年度は、活用イメージ共有のための社会実験として、せともの祭りや春のひな祭りの時期に、事務所棟及び中庭を活用したイベントを実施し、数多くの人に来訪して頂いた。



せともの祭り時のイベントのフライヤー



ひな祭り時のイベントのフライヤー



中庭を活用した飲食スペースの設営



設営準備の様子



せともの祭り時のカフェ運営の様子



ひな祭り時のカフェ運営の様子

(3) プロジェクト実施内容 (※事業の実施方法、時期、場所、回数、市民への周知方法、参加人員等を含め、その内容を具体的に記載)

2021～2022 年度	<p>4 棟の遊休不動産化した建物のリノベーション支援</p> <p>2021年度、2022年度のコンソーシアム瀬戸の取り組みにより、尾張瀬戸エリアを対象に、4物件のリノベーション事業を支援し、歴史的建造物の長屋を活用した本屋「ひとしづく」の実現、歴史的建造物である瀬戸物問屋「梅村商店」のリノベーション活動支援、歴史的建造物の旅館「松千代館」のまちづくり拠点としての再生、「瀬戸くらし研究所」のリノベーション活動支援を実践した。</p> <p>まちづくり拠点「松千代館」の開設</p> <p>長く空き旅館となってきた、末広商店街の発祥と言われている歴史的建造物の旅館「松千代館」をまちづくり拠点として整備。1階を貸し会議室やギャラリー利用、2階を学生シェアハウスとして整備した。整備資金を確保するため、クラウドファンディングを実施した。2021年10月から学生シェアハウス及びまちづくり拠点を開設し、段階的に居場所環境の充実や運営の充実を図っている。また、商店街活動に学生が多く参加するようになってきている。</p> <p>尾張瀬戸エリアを対象とした授業と報告会の開催</p> <p>愛知工業大学建築学科3年生を対象とした授業において、尾張瀬戸の地域が抱える様々な課題解決に向けたまちづくりの提案を取りまとめ、市民向けの報告会を2回開催した。</p> <p>岩屋堂公園における空き店舗を活用した学生チャレンジカフェの実現</p> <p>2022年度のコンソーシアム瀬戸の取り組みにおいて、瀬戸市の岩屋堂公園にて、空き店舗を活用した学生チャレンジカフェを年間通じて運営した。学生がメニュー開発や会計処理、SNSでの呼びかけ、サインや看板の制作、テーブルや椅子のDIYなど、開店準備を実施GWや夏休み、秋のライトアップ期間には1～2週間程度連続開業し、その他の時期は隔週で週末営業を実施している。地元ケーブルテレビで放映。</p>
2023 年度～ 2023 年 04 月～	<p>リノベーション物件の運営の充実 (GW・夏休み・秋のライトアップ・隔週週末)</p> <p>尾張瀬戸周辺エリア及び岩屋堂公園におけるリノベーションした遊休不動産の運営の充実を推進。特に松千代館における1階の日常利用、岩屋堂公園における学生カフェの運営を中心に取り組んでいる。</p>
2023 年 08 月～	<p>尾張瀬戸地区を対象とした学生シャレットWSの開催 (8/5-8/8)</p> <p>末広通り商店街において、東京都立大学と愛知工業大学の学生による空き家の事業検討シャレットWSに参画。末広通り商店街における3棟の空き店舗活用をテーマに3泊4日の合宿を行い事業計画からリノベーションの提案を行った。</p>
2023 年 09 月～	<p>尾張瀬戸エリアにおける空き家リノベーションの推進</p> <p>継続的に尾張瀬戸周辺エリアにおける空き家の調査や歴史的建造物の調査、空き家リノベーションの実現を目指す。</p>
2023 年 09 月～	<p>大規模歴史的建造物「旧山繁商店」の活用検討 (9/9-9/10・2月末-3/3)</p> <p>尾張瀬戸エリアの中でも課題となっている、大規模歴史的建造物である登録文化財「旧山繁商店」の活用検討を推進する。旧山繁商店は、瀬戸物の問屋であり、やきものの産地としての文化を継承する貴重な歴史的建造物である。</p> <p>瀬戸市文化課との協議を行い、今年度は、せともの祭りの時期や春のひな祭りの時期に、活用イメージ共有のための社会実験として、事務所棟及び中庭を活用。</p>

(4) プロジェクトの今後の課題と展望

- 日本遺産でもある尾張瀬戸の街並みを構成する歴史的建造物は尾張瀬戸市において重要な資産であるが、家族継承ができず、空き家化することで年々減少傾向にある。これらの歴史的建造物をしっかり保全する仕組みづくりが都市計画や文化資源マネジメントにおいて今後益々重要となる。
- 2022年度は、①まちづくり拠点として整備した松千代館の運営の充実、②岩屋堂公園における学生チャレンジカフェによる空き店舗の運営、③瀬戸くらし研究所のリノベーション支援の3つの取り組みを中心に、本事業を推進した。
- 継続的な空き家活用のためには、地域で空き家再生、空き家活用を相談できる体制が必要である。現在、尾張瀬戸地区では、多様な空き家再生と活用の担い手が発生しており、産官学の連携による空き家相談のプラットフォームの構築を推進していくことが望まれる。
- シェア産業、アート産業、宿泊産業、飲食サービス業など、遊休不動産化した歴史的建造物の空き家に多様な介入産業が展開し始めている。尾張瀬戸エリアでのこれらの介入産業の連携や空き家活用を推進していく仕組みを構築することが期待される。

(注) プロジェクトに関する参考資料がある場合は、A4サイズで添付してください。

2 活動写真



松千代館入居者 2021年度



松千代館入居者 2022年度



商店街イベント時の店舗活用



新規出店のためのチャレンジ活用



商店街イベントへの学生の参加



イベント時の学生によるお茶のサービス



ギャラリースペースのDIYでの充実



瀬戸まち歩きの実践

2 活動写真



2022年度秋の営業の様子 昼



2022年度秋の営業の様子 夜



2022年度夏の営業の様子



2022年度夏の営業の様子



カフェの家具製作



カフェの設営の様子



カフェの設営準備



カフェの設営準備

2 活動写真



旧山繁商店の活用の様子



旧山繁商店の活用の様子



旧山繁商店設営準備の様子



梅村商店リノベーション支援の様子



せともの祭りにおける松千代館でのカフェ営業の様子



岩屋堂学生チャレンジカフェの取材の様子



学生シャレットWSの様子



学生シャレットWSの様子

益
MAO
LAD

尾張瀬戸地域における学生主体による一連のまちづくり支援活動

令和3年～5年の年度実施

尾張瀬戸地域は古くから陶磁器産業のまちとして栄えてきました。一方近年では、様々な地域課題が顕著になってきています。私たちは愛知工業大学生命科学研究室では、様々な実証実験なども連携しながら、学生主体による以下の5つの取り組みを推進しています。
 ①地域産産を自主事業で再生活用する取り組み（学生シニアプロジェクトの活用）
 ②地域資源の再生を支援する取り組み（産学連携による「日本・ひととすく」・「瀬戸くらし研究所」・「瀬戸村商店」の再生プロジェクト支援）
 ③地域まちづくり活動への参加（商店街の会議やイベント等）
 ④瀬戸を対象とした大学授業への参加（産学連携による授業やワークショップ等）
 ⑤瀬戸を元にした学生活動（産学連携による学生活動）

松千代館再生プロジェクト

地域に選ばれる歴史的建造物はそのまわりの歴史文化、人々の営みを色濃くに伝え、重要な資産であるのにも関わらず、切迫した状況に陥っています。切迫した状況に陥っている歴史的建造物を再生活用することで未来に受け継ぐことができ、また、地域活性化にもつながります。令和3年度には、松千代館の再生プロジェクトとして、松千代館の再生プロジェクトを実施しました。令和4年度には、松千代館の再生プロジェクトとして、松千代館の再生プロジェクトを実施しました。

岩屋プロジェクト

岩屋プロジェクトは、尾張瀬戸地域の歴史文化、人々の営みを色濃くに伝える重要な資産であるのにも関わらず、切迫した状況に陥っています。切迫した状況に陥っている歴史的建造物を再生活用することで未来に受け継ぐことができ、また、地域活性化にもつながります。令和3年度には、岩屋プロジェクトとして、岩屋の再生プロジェクトを実施しました。令和4年度には、岩屋プロジェクトとして、岩屋の再生プロジェクトを実施しました。

旧山繁商店活用プロジェクト

旧山繁商店は、尾張瀬戸地域の歴史文化、人々の営みを色濃くに伝える重要な資産であるのにも関わらず、切迫した状況に陥っています。切迫した状況に陥っている歴史的建造物を再生活用することで未来に受け継ぐことができ、また、地域活性化にもつながります。令和3年度には、旧山繁商店活用プロジェクトとして、旧山繁商店の再生プロジェクトを実施しました。令和4年度には、旧山繁商店活用プロジェクトとして、旧山繁商店の再生プロジェクトを実施しました。

瀬戸まちづくり支援活動

瀬戸まちづくり支援活動は、尾張瀬戸地域の歴史文化、人々の営みを色濃くに伝える重要な資産であるのにも関わらず、切迫した状況に陥っています。切迫した状況に陥っている歴史的建造物を再生活用することで未来に受け継ぐことができ、また、地域活性化にもつながります。令和3年度には、瀬戸まちづくり支援活動として、瀬戸まちづくり支援活動を実施しました。令和4年度には、瀬戸まちづくり支援活動として、瀬戸まちづくり支援活動を実施しました。

学生カフェ公園に元気

学生カフェ公園は、尾張瀬戸地域の歴史文化、人々の営みを色濃くに伝える重要な資産であるのにも関わらず、切迫した状況に陥っています。切迫した状況に陥っている歴史的建造物を再生活用することで未来に受け継ぐことができ、また、地域活性化にもつながります。令和3年度には、学生カフェ公園に元気をプロジェクトとして、学生カフェ公園の再生プロジェクトを実施しました。令和4年度には、学生カフェ公園に元気をプロジェクトとして、学生カフェ公園の再生プロジェクトを実施しました。

瀬戸を元にした学生活動

瀬戸を元にした学生活動は、尾張瀬戸地域の歴史文化、人々の営みを色濃くに伝える重要な資産であるのにも関わらず、切迫した状況に陥っています。切迫した状況に陥っている歴史的建造物を再生活用することで未来に受け継ぐことができ、また、地域活性化にもつながります。令和3年度には、瀬戸を元にした学生活動として、瀬戸を元にした学生活動を実施しました。令和4年度には、瀬戸を元にした学生活動として、瀬戸を元にした学生活動を実施しました。

愛工大生20人 屋外に手作りテーブルも

愛工大生20人は、尾張瀬戸地域の歴史文化、人々の営みを色濃くに伝える重要な資産であるのにも関わらず、切迫した状況に陥っています。切迫した状況に陥っている歴史的建造物を再生活用することで未来に受け継ぐことができ、また、地域活性化にもつながります。令和3年度には、愛工大生20人 屋外に手作りテーブルもプロジェクトとして、愛工大生20人 屋外に手作りテーブルもを実施しました。令和4年度には、愛工大生20人 屋外に手作りテーブルもプロジェクトとして、愛工大生20人 屋外に手作りテーブルもを実施しました。

せとの祭に36万人

せとの祭は、尾張瀬戸地域の歴史文化、人々の営みを色濃くに伝える重要な資産であるのにも関わらず、切迫した状況に陥っています。切迫した状況に陥っている歴史的建造物を再生活用することで未来に受け継ぐことができ、また、地域活性化にもつながります。令和3年度には、せとの祭に36万人プロジェクトとして、せとの祭に36万人を実施しました。令和4年度には、せとの祭に36万人プロジェクトとして、せとの祭に36万人を実施しました。

瀬戸まちづくり支援活動

瀬戸まちづくり支援活動は、尾張瀬戸地域の歴史文化、人々の営みを色濃くに伝える重要な資産であるのにも関わらず、切迫した状況に陥っています。切迫した状況に陥っている歴史的建造物を再生活用することで未来に受け継ぐことができ、また、地域活性化にもつながります。令和3年度には、瀬戸まちづくり支援活動として、瀬戸まちづくり支援活動を実施しました。令和4年度には、瀬戸まちづくり支援活動として、瀬戸まちづくり支援活動を実施しました。

松千代館再生プロジェクト

松千代館再生プロジェクトは、尾張瀬戸地域の歴史文化、人々の営みを色濃くに伝える重要な資産であるのにも関わらず、切迫した状況に陥っています。切迫した状況に陥っている歴史的建造物を再生活用することで未来に受け継ぐことができ、また、地域活性化にもつながります。令和3年度には、松千代館再生プロジェクトとして、松千代館の再生プロジェクトを実施しました。令和4年度には、松千代館再生プロジェクトとして、松千代館の再生プロジェクトを実施しました。

岩屋プロジェクト

岩屋プロジェクトは、尾張瀬戸地域の歴史文化、人々の営みを色濃くに伝える重要な資産であるのにも関わらず、切迫した状況に陥っています。切迫した状況に陥っている歴史的建造物を再生活用することで未来に受け継ぐことができ、また、地域活性化にもつながります。令和3年度には、岩屋プロジェクトとして、岩屋の再生プロジェクトを実施しました。令和4年度には、岩屋プロジェクトとして、岩屋の再生プロジェクトを実施しました。

① 尾張瀬戸地域における学生主体による一連のまちづくり支援活動

令和3年度～実施

松千代館再生プロジェクト

「東広田町商店街」にある20年以上空室旅館となった歴史的建造物「松千代館」を単体の場として再生。1階を学生シェアハウスとし、地域のみなさんにも開放するまちづくりを模索しています。企画、企画、設計、工事への参加だけでなく日常的に歴史的建造物に共同で住まい、また1階の運営も主体的に関わっています。

背景「松千代館」の概要

松千代館は、築100年以上の歴史ある建物を再生し、まちづくりの場として活用しています。松千代館を再生し、まちづくりの場として活用しています。松千代館を再生し、まちづくりの場として活用しています。

1階 シェアスペース

1階はチャラリやイベント貸出スペースなど、まちのシェア空間として積極的に開放。

2階 学生シェアハウス

2階は学生向けのシェアハウスとして、文化やまちづくりを牽引する仲間を募集。

PROJECT OVERVIEW SCHEME CONCEPT / PLAN

② 空き旅館を学生シェアハウスとして再生した松千代館再生プロジェクト

③ 岩屋堂公園における学生チャレンジカフェによる空き店舗の運営

令和4年度～実施

岩屋堂プロジェクト -hirondelle-

固定公園である蒲戸市岩屋堂公園内の空き店舗を活用した学生カフェ「Hirondelle」の運営、公園内に点在する2棟の空き店舗を活用し、学生カフェにより公園の賑わいづくりに貢献しています。また、学生自主事業としてカフェを運営することで、経営や店舗デザイン、ブレインメイキングを学んでいます。

空き空間の活用を促したブレインメイキング

人口減少社会移行の今日、地域社会の衰退が深刻な状況です。その典型的な課題として、空き家・空き店舗・空き地といった未活用空間の増加が挙げられます。近頃、このように空間を活用することで地域再生のきっかけとする「ブレインメイキング」の取り組みが全国各地で進められています。

本プロジェクトでは、愛知工業大学の跡地である蒲戸市を中心に、地域のエリア内をプロボノとして活用することを目的としています。岩屋堂公園内に設置されている空き店舗を対象に、地域の活動を再生するブレインメイキングの取組を目的としています。

社会実験・準備

2022年4月20日から5月5日まで7日間で第1回目の社会実験を行いました。岩屋堂の現状把握、周辺地域の状況把握、SNSを通じた宣伝による集客促進等の目的のため、参加者にアンケートを配り、意見や体験を収集しました。岩屋堂は朝日新聞やハードウェアマガジンが掲載しており、多くの方に注目され、朝日新聞や朝日新聞などにも掲載され、自然と集客がなされました。そこで、ゆかりの地と自然を背景とする体験型として利用出来る空間を目指し、テーマカフェ、フライヤー、メニューなどの制作を行いました。

PROJECT OVERVIEW EXPERIMENT DEVELOPMENT

運営と周辺地域への展開「出張hirondelle」

自らの手で空間をつくる

学生カフェ「Hirondelle」の運営に当たっては、空き店舗の管理やインテリア制作、メニューや商品の企画に至るまで、全て学生主体で行って行われています。地元に関わりながら、岩屋堂の歴史や文化を伝える場として、地元の人々や観光客の目撃を期待しています。また、まちづくりの場として、まちづくりの場として活用しています。

周辺の地域イベントに出張!

カフェの運営は岩屋堂公園内に限定されず、地域のイベントや祭りに合わせて出張しています。地域のイベントや祭りに合わせて出張しています。地域のイベントや祭りに合わせて出張しています。

また、蒲戸市で定期的に開催されている「まちづくりフェスティバル」や、「まちづくりフェスティバル」などにも出張しています。出張することで、地域の活性化に貢献しています。

岩屋堂公園の小さな店舗から始まった学生カフェ、地域の活性化を促す活動を行っています。また、まちづくりの場として活用しています。

瀬戸まちづくり支援活動

令和3年～4年度実施

尾張瀬戸地区にある空き家の課題に対して、様々なリノベーションを支援（企画・発注・設計・発注・大規模・解体・DIY等）しています。また、尾張瀬戸地区を対象とした、大学の授業や大学連携のチャレアップWSなどに参加し、瀬戸の将来を考える活動を行っています。日常的には、まちづくり拠点の運営や日々の生活を通して、尾張瀬戸地域の一員として、地域のまちづくり活動を推進しています。

ワークショップやDIYを介した実践的地域参加

歴史建造物の活用した本屋「ひとしずく」の実現
2021年9月から10月にかけて、尾張瀬戸エリアを対象に4棟の本・ひとしずく、旧山崎製紙、松平製紙、尾張くまの（旧山崎）のリノベーション事業を実施しました。日本語でもできる尾張瀬戸の町並みを創る歴史的建造物は、重要な財産である空家を再生し、まちづくりの拠点となります。地域の高度な保存活用するたが、本・ひとしずくでは、学生選が大規模やDIY等を支援することで卒業生が活動を行いました。

「瀬戸くらし研究所」の実現
2022年4月から、瀬戸市「瀬戸まじり町商店街」にある空き店舗「ブローネ」の再生プロジェクトに学生が参加しました。「ブローネ」の再生についで、瀬戸市の分析・まちづくりのワークショップから出たアイデアをもとに、地元新聞社と学生のリノベーション研究会が連携して、尾張瀬戸地区のまちづくりを推進しています。



愛知工業大学・東京都立大学合同ワークショップ

2023年8月、愛知工業大学社会福祉学部の学生と東京都立大学の学生が尾張瀬戸市を訪問し、尾張瀬戸地区のまちづくりワークショップを行いました。尾張瀬戸地区のまちづくりワークショップは、2023年には空き家率が30%近く到達し、2,000戸以上の空き家があることが明らかになりました。特に尾張瀬戸地区の中心部には、多くの空き家があり、多くの空き家を再生し、まちづくりの拠点となります。尾張瀬戸地区のまちづくりワークショップは、尾張瀬戸地区のまちづくりを推進しています。



尾張瀬戸地域を対象とした地区再生計画

大学の授業や実習、卒業論文等を通じて、尾張瀬戸地区を対象とした地区再生計画を行っています。地域の文化財を活かしながらリノベーションを推進し、歴史的建造物の活用や実習、卒業論文等を通じて、尾張瀬戸地区を対象とした地区再生計画を行っています。地域の文化財を活かしながらリノベーションを推進し、歴史的建造物の活用や実習、卒業論文等を通じて、尾張瀬戸地区を対象とした地区再生計画を行っています。



PROJECT PRACTICE OVERVIEW / RESULT

旧山繁商店活用プロジェクト

令和4年度～実施

元副店長「旧山繁商店」は、尾張瀬戸の歴史的文化を象徴する歴史的建造物です。平成27年度に国の有形文化財に登録され、建物の保存活用が望まれています。本プロジェクトは、瀬戸市、民間会社・大学が連携し、瀬戸市中心市街地の観光・交流の拠点創出と、旧山繁商店の再生を目的とし、事業化検討や活用イメージの共有のための社会実験などを行っています。

背景「旧山繁商店」の概要

旧山繁商店は、明治時代から瀬戸町の繁華を担ってきた歴史的建造物で、近代化の象徴として国の有形文化財に登録されています。平成26年度（2014年）に、瀬戸市の中心市街地の活性化を図るため、国の有形文化財に登録された旧山繁商店は、瀬戸市中心市街地の観光・交流の拠点創出と、旧山繁商店の再生を目的とし、事業化検討や活用イメージの共有のための社会実験などを行っています。

活動内容	2022/7月	8月	11月	2023/1月	3月	5月	9月	今後
活動内容	卒業生向け授業	活用検討作業	活用検討作業	活用検討作業	活用検討作業	活用検討作業	活用検討作業	活用検討作業
活動写真	卒業生向け授業	活用検討作業	活用検討作業	活用検討作業	活用検討作業	活用検討作業	活用検討作業	活用検討作業

プロポーザル作成の様子

2022年11月、瀬戸市にプロポーザルを作成し、尾張瀬戸地区のまちづくりワークショップを行いました。尾張瀬戸地区のまちづくりワークショップは、尾張瀬戸地区のまちづくりを推進しています。



歴史的建造物の保存、そして活用へ

旧山繁商店復活祭

2023年9月、ほとんどの歴史的建造物に隣接して研究開発学生が主体となり、旧山繁商店復活祭を開催しました。尾張瀬戸地区のまちづくりワークショップは、尾張瀬戸地区のまちづくりを推進しています。

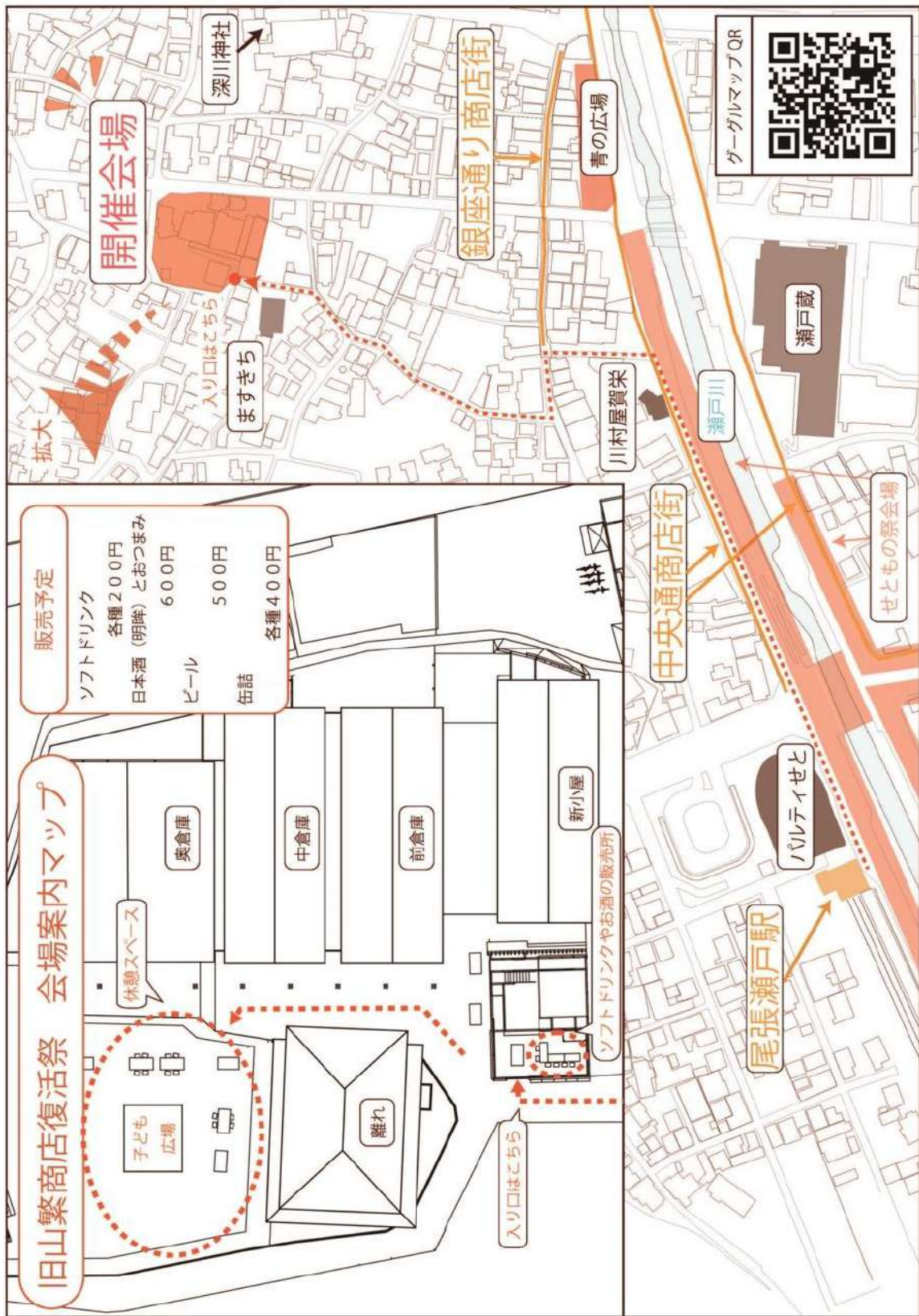


PROJECT OVERVIEW SCHEDULE SUGGESTION PRACTICE

- ④ 登録文化財である旧山繁商店の活用のための支援
- ⑤ 尾張瀬戸地区における数多くのリノベーション支援



旧山繁商店復活祭パンフレットデザイン



旧山繁商店復活祭会場案内マップ

歴史ある建物に
囲まれて一休み
しませんか？

第23回 陶のまち瀬戸のお雛めぐり
【国登録有形文化財旧山繁商店】

やましげ物語 ～お雛めぐり～

日時 学生喫茶 運営日
2024年 2月 23 (金・祝)、24 (土)、25 (日)
3月 2 (土)、3 (日)
午前 10:00 ~ 午後 5:00

場所 旧山繁商店にて (愛知県瀬戸市仲切町 23)

内容 お雛めぐり・休憩所・学生喫茶

詳細 明治時代から瀬戸市の焼き物産業を支えてきた旧山繁商店の保存・活用に向けた取り組みのお雛めぐりと、愛知工業大学の学生が主体となりカフェ&バー等のイベント運営を通して賑わいをつくり、旧山繁商店の部分的な一般公開兼活用に向けた取り組みを行います。

尾張瀬戸駅から
徒歩 10分

開催場所

尾張瀬戸駅
中島通商ビル
旧山繁商店
瀬戸市役所
瀬戸市立図書館

マップQR

展示の詳細は裏面へ

瀬戸発祥の地酒
である日本酒の
明眸もぜひ！

ソフトドリンク
あるよ！
休憩しに来てね

旧山繁商店

企画運営 大学コンソーシアムせと & 愛知工業大学 益尾研究室

旧山繁商店お雛めぐり パンフレットデザイン

大正の旧旅館シェアハウスに住む6人



●旧千代紙を改装したシェアハウスで暮らす学生たち
●最上階は学生たちが作った
●学生が住む様子の一つ。いずれも神戸市と天保町商店街で
●元旅館の設備を生かした共用キッチン

特報 旅館

瀬戸市のせと天保町商店街に残る大正建築の旧旅館「松平代館」。所有者が疲
らの思いをくんで、二〇二二年九月から学生用シェアハウスに生まれ変わった。
今春は、就職のため遠方へ引っ越した学生と入れ替わりで新たな四人が入居。
現在、ここで暮らし愛知工業大(豊田市)の計六人は忙しい学生生活を送りなが
ら、街を元気づけるために何かを探っている。

木造二階建ての旧館は大旅館として繁盛したが、陶の盆を結成したことだ。
正四(一九一五年)年、やき磁器産業の衰退に伴って九芳枝さんは「同僚も解体の
ものを買った高島屋を引く。八年以降は西宮家、商店街のイベントなどで使われ
るのひびきを直す」「随分、街のイベントなどで使われ、たぶん、放っておくと倒
屋」として創業した。大正後期から昭和初期まで、主
に運搬や仕入れ業者が使っ

改修のきっかけは昨年六
月、市内に住む所有者、館
木茂子さんの娘で、グ
ラフィックデザイナーの芳
枝さん(一)東京都在住
が、知り合いの建築家や都
市計画などが専門の建築家
祐・同大准教授らと「再生

ば学びの場になるのではな
いか」といった声が出た。
耐震補強などの改修費用
はクラウドファンディング
で約百八十四万を調達し
一階はギャラリー空間に、
二階を間仕切りを省いて六
つの個室と共用ルームを備
えたシェアハウスとした。
当初から住むのは工学
研究科二年の平松拓真さん
(二)と、工学部四年の山本
さん(三)の二人。今春から
同級生の吉田真希さん
(三)、後藤由紀子さん
(三)、服部穂子さん(三)
が生が住んで、商店街の人と
コミュニケーションを取れ
が加わった。

愛工大生 祭り参加「商店街に根張る」

学生たちは、同商店街振
興組合の理事会に毎月出
席。商店街の店主有志が
主催して開かれた昨年十月
の「すえびる勝手に福まつ
り」では、子ども向けにサ
メ釣りの射的の店を出すな
ど盛り上げに一役買った。
山本さんは「若い人が来た
と喜んでもらっているのを
感じる」と笑顔を見せる。
一方で、学業との両立は
難しいという。平松さんは
「研究が忙し、なかなか
自発的に動き出せないのが
悔しい」と話す。組合の
大橋徹太郎理事長は「若い
視点を生かして、街のため
になる独自の催しを企画し
てみてほしい。卒論がに
生かしてもうのもいい」
と期待する。

学生たちは存在をもっと
知ってもらうため、今後は
土、日曜を中心に勉強しよ
うと考えている。本朝を設
け、商店街の人たちを中心
に地域住民のたまり場にな
るとも検討中だ。六人は
「商店街に根を張って、一
緒に活性化策を考えてい
けたら」と意気込んでい
る。

瀬戸を元気に学生奮闘中

なごや東版

アンソリウムⅡ
若松加津子
光陵会

ニュース、情報ほ下配へ
社会部
052-221-1650-5919
Eメール
shakas@chunichi.co.jp

瀬戸支局 早489-0809
瀬戸市共栄通4-8
0561-82-3121 Fax 82-5316
白蓮通信部 〒470-0113
日進市栄2-214
0561-74-2002 Fax 74-2003
春日井支局
0568-21-2036 Fax 81-2797
大山通信部
0568-61-2612 Fax 61-2613
小牧通信部
0568-72-1177 Fax 72-6530

中日新聞へのご意見は
読者センターへ
052-221-0800 Fax221-0819
Eメール
center@chunichi.co.jp
掲載写真や個人情報を掲載の方は
掲載の中日新聞版別品へ

供養のかけこみす
不慮に供養 樹木
株付供養
大法寺
気持にお返ししましょう
0567-28-7319
愛知市稲葉町立瀬戸の寺
【樹木葬 大法寺】 無量光

大正建築、住んで学んで



愛知の旧旅館、シェアハウスに

愛知県瀬戸市のせと末の面影が残る木造2階建
広町商店街の一角に、大正建築の旧旅館「松千代」がたたずむ。かつて学を学ぶ若者が入居し、

空き家問題など地域社会の課題を考える「学びの場」になっている。

1915年(大正4年)に馬車馬のひつめの保護

具を直す「蹄鉄(ていて

つ)屋」として創業。大

正後期から昭和初期にか

けて、陶磁器を運ぶ商人

が泊まる旅館として栄え

た。陶磁器産業の衰退に

伴い、98年以降は空き家

に。老朽化が進み、解体

の危機にひんしていた。

家族の歴史や思い出が

詰まった建物を取り壊し

たくはないが、管理が難

しく所有が負担になる。

2021年、建物の

所有者の娘でグラフィック

デザイナーの鈴木芳枝

さんが、愛知工業大で都

市計画を研究する益尾孝

祐准教授や知り合いの建

築家らと「再生の会」を

結成した。

耐震補強や修繕のため

にクラウドファンディン

グで約280万円を調

達。旅館の構造を生かし

同年9月、1階をギヤラ

リーなどのレンタルスぺ

ースに、2階を学生用シ

ェアハウスに改装した。

学生が自主運営し、1

階の利用料と2階の賃料

を元手に事業化を目指

「松千代館」の1階をレンタルス
ペースに改装し、学びの場として
活用する(愛知県瀬戸市)

空き家問題を考える場

現在、愛知工業大生9人が入居。高齢化が進む商店街の活動に参加したり、DIYで地域住民が集まる空間づくりをしたりする。大学のゼミで利用されることもある。家賃は電気・水道代込みで月1万8千円ほど。大学にも近く、学生にうってつけた。住人の工学研究科2年の平岩拓真さんは「地域の方と関わる事ができるのは貴重な経験」と笑顔を見せる。鈴木さんは「建物は使わないと残せない。今後、活動を広げ、さまざまな年代の人が学べる場所にしていきたい」と話している。



紅葉を楽しみながら飲食を楽しめるスペース。テーブルは手作り—いずれも瀬戸市岩屋町で



カフェの前で来店を呼びかける藤木さんと加藤さん

学生カフェ 公園に元気

瀬戸・岩屋堂

夏の避暑地や紅葉の名所として知られる瀬戸市岩屋町の岩屋堂公園で、愛知工業大（豊田市）の学生が運営するカフェが注目を集めている。新たに「岩屋堂プロジェクト」の一環。次回の営業は、二十六、二十七日の二日間を予定している。（加藤慎也）

公園西側の駐車場に近い「カフェ・イロンデル」は、かつて「つばめ屋」の名前で来園者に飲食を提供していた。つばめ屋の廃業後、近年は名古屋市の会社が建物を利用して、夏や秋に断続的にカフェをオープンさせていた。

学生カフェは今年三月、若い力を生かして公園を再生させてほしいと、会社から研究室に相談があったのがきっかけ。運営に携わるのは有志約二十人だ。自然

愛工大生20人 屋外に手作りテーブルも

の中で飲食を楽しんでもらおうと、手作りした八つのテーブルを、木々に囲まれた店舗裏のスペースに設置。焼き野菜カレーやゆずサイダーなどメニューも自分たちで考え、六、七月の隔週末やお盆などに営業してきた。

年内の営業は今月が最後で、紅葉を楽しみながら体を温めてもらおうと、日替わりスープとパンのセット（六百円）のほか、ハンドドリップコーヒー（五百円）などを販売する。店を開けた十一、二十日は一日当たり三十人ほどが訪れたという。

中心メンバーで住居デザイン専攻の四年生、藤木由子さん（二）と加藤直さん（三）の二人は卒業研究で、他の地域の学生カフェと比較したり、地域との関わり方について考察を深めたりする予定だ。加藤さんは「学生にとっても来園者にとっても新しい空間ができた」と充実感でいっぱい。

藤木さんは「岩屋堂を知ってもらおうきっかけになれば」と期待する。営業は午前十一時～午後四時。

2022.11.22 中日新聞朝刊なごや東版12面記事利用申請許諾済み

新聞掲載 中日新聞 2022年11月22日

桑戸 尾戸 2023年(令和5年)9月12日(火曜日) なごや東 14

9、10日の2日間、瀬戸市一帯で開かれた「第92回せともの祭」(大せともの祭協賛会主催)。コロナ禍で規模を縮小して3年ぶりに開催された昨年を経て、ほぼ本来の形に戻った今回は計36万人(主催者発表)が来場。昨年を2万人上回った。(伊藤ちさと)

せともの祭に36万人

関連行事 旧陶磁器卸問屋で愛工大生カフェ

○…祭りに合わせ、特別公開された国の登録文化財「旧山繁商店」。例年、休憩所として開放されているが、今年は愛知工業大の益尾孝祐准教授のセミナーに所属する学生が企画したカフェが登場した。旧山繁商店は1887年創業の陶磁器卸問屋。離れや事務所など9棟の建物が残されており、明治から昭和にかけての瀬戸をものごたる建物として2015年から市が管理している。学生たちは、もともと焼き物を入れていたかごを積み重ねてテーブルやパーカウインターを設置。瀬戸の地酒、明やビール、ソフトドリンクなどを販売した。同大学院で学ぶ五十嵐翔さん(24)は「今あるものをどう生かすか悩んだ。初めて来たという地元の人が多いのが印象的だった」と話していた。

学生が運営するカフェは、瀬戸市仲切町の旧山繁商店で

おっきいね
伊藤寿美
白士会

ニュース、情報は下記へ
社 会 部
052-231-1650・5919
Eメール
shakai@chunichi.co.jp

瀬戸支局 〒489-0809
瀬戸市共栄通4-8
0561-82-3121 Fax 82-5316
日進通信部 〒470-0113
日進市栄2-214
0561-74-2002 Fax 74-2003
春日井支局
0568-81-2036 Fax 81-2797
犬山通信局
0568-61-2612 Fax 61-2613
小牧通信局
0568-72-1177 Fax 72-6530

中日新聞へのご意見は
読者センターへ
052-221-0800 Fax221-0819
Eメール
center@chunichi.co.jp
掲載写真を購入希望の方は
最寄りの中日新聞販売店へ

新聞掲載 (中日新聞 9月12日)



ケーブルテレビへの出演 (そらまめ通信)